

AFACT/UNNEXT & ESCAP-ECO フォーラム会議報告

2012年5月19日～5月26日

キッシュ (イラン)

報告者：SIPS 事務局長 菅又 久直

I. 会議日程：

- 5月19日(土) 東京発
- 5月20日(日) キッシュ着
- 5月21日(月) AFACT 技術手法委員会 (TMC) 会議
- 5月22日(火) AFACT 運営委員会 (StC) 会議
- 5月23日(水) UNNEXT 技術研修ワークショップ
- 5月24日(木) ESCAP-ECO 貿易手続簡易化フォーラム
- 5月25日(金) ESCAP-ECO 貿易手続簡易化フォーラム、キッシュ発
- 5月26日(土) 東京着

II. 会議参加の目的：

アジア各国で協力して、効率的で相互運用性のあるグローバルサプライチェーンのための情報基盤を構築することを目指して、アジア各国の代表と技術的・手続的課題を審議するためにAFACT会議（運営委員会および技術・手法委員会）に参加した。

また、国連 ESCAP・UNNEXT の要請により、UNNEXT 技術研修ワークショップの講師を務めるとともに、ECO 各国の電子ビジネス活用の状況を把握するために、続いて開催された ESCAP-ECO 貿易手続簡易化フォーラムに参加した。

- ◇ AFACT（アジア太平洋貿易手続簡易化と電子ビジネス促進センター）：国連 CEFACT が開発した貿易円滑化と電子ビジネスに関する国際標準等の普及を図るために、国連 CEFACT アジア地区ラポーターと連携して活動する非営利の団体で、現在アジアの 19 カ国・経済圏が参加している。
- ◇ 国連 ESCAP（アジア太平洋地域経済社会委員会）：国連経済社会理事会の地域委員会の一つで、アジア太平洋地域の経済、社会開発のための協力機関である。国連 ESCAP では、2009 年より、「アジア太平洋貿易円滑化フォーラム」を開催し、貿易手続簡易化と電子ビジネスの促進政策を進めている。
- ◇ UNNEXT（国連アジア太平洋電子取引専門家ネットワーク）：電子取引と貿易のシングルウィンドウを、国際標準に基づき、アジア太平洋地域の主に発展途上国に促進するため、地域情報ハブを目指して 2009 年に国連 ESCAP と国連 ECE が協力して発足したグループである。当グループは、国際標準（国連 CEFACT、WCO、京都議定書）に則り、電子取引と貿易シングルウィンドウのための調査

分析・知識共有・ツールとガイド整備・教育研修・地域技術支援などの活動を行っている。現在、国連 ECE との重複加盟（ロシア等）を含めて 62 ヶ国が加盟している。

- ☆ ECO(Economic Cooperation Organization) : 1985 年に発足、イランを中心にした地域経済・社会共同体で、地域の経済・技術・文化向上を目的としている。エネルギー、貿易、運輸、農業等をターゲットにしており、シングルウィンドウの構築と電子ビジネスの促進も重要な課題の一つになっている。加盟国は、イランとその周辺の 10 カ国である。

なお、今回の一連のイベントは、イラン政府の後援の下にキッシュ自由圏組織（KFZO: Kish Free Zone Organization）がスポンサーを務めた。

III. AFACT 会議総括：

AFACT は、1 年毎に異なるメンバー国が議長国となり、運営委員会と総会の 2 回のイベントを主催する。2012 年はイランが議長国（2010 年：日本、2011 年：台湾）で、今回のキッシュにおける運営委員会、およびテヘランでの総会（11 月中旬）が予定されている。

今回の会議には、日本（小生を含め、4 名）、韓国、台湾、シンガポール、タイ、イラン、ベトナム、カンボジアの 8 カ国、24 名が参加した。

小生（SIPS 事務局長：菅又久直）は、技術手法委員会（TMC）の委員長の立場で、運営委員会（StC）および TMC 会議に参加した。

IV. AFACT 技術手法（TMC）委員会会議：

TMC 委員会には、3 カ国（台湾、イラン、日本）から 9 名が参加した。今回は、日本（1 名）および台湾（1 名）以外はイランからの初参加メンバーのため、審議より小生による国連 CEFACT 技術動向説明が中心となった。

（1）国連 CEFACT 技術動向

本年 4 月の国連 CEFACT にて議論になった技術テーマにつき、小生が説明を行った。カバーしたテーマは次の通り。

「信頼できるメッセージ交換（国連 CEFACT 新勧告としてのプロジェクト準備）」

「ビジネス文書ヘッダー（プロジェクト範囲の再設定）」

「ビジネス文書構成法（公開レビュー完了）」

「コア構成要素技術標準 V2.01 と V3.0 の扱い（CCL V2.01 と V3.0 は共存）」

「新技術フレームワーク（新たな検討事項としてスタート）」

「オープンデータ交換フレームワーク（国連 CEFACT と ISO の合同プロジェクト）」

最後のテーマにつき、ISO TC154 のリエゾンである AFACT から代表を出すべきと提言したが、今回の参加メンバーから立候補を申し出る者はなかった。(小生は、国連 CEFACT 側のメンバーとして登録済み)

(2) サプライチェーン情報基盤研究会の紹介

小生より、日本において次世代 EDI 推進協議会 (JEDIC) が解散し、新たに国連 CEFACT 日本委員会の下にサプライチェーン情報基盤研究会 (SIPS) が発足したことを紹介し、次の説明を行った。

- ・ SIPS は、アジア地域のグローバルサプライチェーンのために、国連 CEFACT 標準に基づいた効率的で相互運用性のある情報基盤を推進することを目指している。
- ・ アジアの各地域ごとに取引慣行が異なり、それが取引リスクとなっている事を懸念している。情報技術を、ビジブルで公正な取引の基盤を構築することに役立たせたい。

(3) 各国における CCL のローカライゼーション

台湾は CCL2011B に基づき、コア構成要素について中国語 (旧字) 対応を完了。日本は CCL2010A に基づき、コア構成要素とビジネス情報項目の日本語対応を完了したことを報告。各国語対応は、各国のユーザー業界で国連 CEFACT 準拠のメッセージ定義を行うとき役に立つ。日本・台湾以外で各国語対応のニーズにつき調査することとした。

(4) 今年度の活動計画

- ① CCL ローカライゼーション・ニーズの調査
- ② 国連 CEFACT 標準を活用するための技術フレームワーク案の作成

V. AFACT 運営委員会 (StC) :

AFACT の活動状況および活動計画につき、次の審議が行われた。

(1) 国連 CEFACT 状況報告

国連 CEFACT アジア地区ラポーターの Dr. Ajin の代理で、Dr. Choompol Boommee より本年 4 月にジュネーブにて開催された国連 CEFACT フォーラムの概要説明が行われた。引き続き、平井氏 (JASTPRO) より勧告 14 号 (署名以外の方法による貿易書類の認証) につき電子文書の扱いに関する提案が出されていること、および小生より国連 CEFACT 手法・技術関連の動向についての補足説明が行われた。

(2) 作業グループ活動報告

- ① TMC (技術・手法委員会) 報告

小生より、技術手法委員会の報告（「IV.AFACT技術手法（TMC）委員会会議」参照）を行った。テーマの内「オープンデータ交換フレームワーク（国連CEFACTとISOの合同プロジェクト）」につき、イランおよびシンガポールより当該合同プロジェクトに参加する意向が示された。

② TTL-WG（旅行グループ）報告

鈴木氏（旅行電子商取引促進機構）より、イラン（キッシュ自由圏組織）、韓国をはじめ多くの参加者が集合し、活発な意見交換が行われたことが報告された。旅行先情報プロジェクトの新規提案が韓国よりなされた。

③ CSC（広報・支援委員会）報告

CSC 議長の Ms. Eva（台湾）より、2011 年 e アジア賞が AFACT のみならず ESCAP の Web にも掲載されたことが紹介された。また、調査に基づく、次の情報を掲載する AFACT リポジトリを設置することが提案された。

- ・ 税関プロセスの現状と計画
- ・ B2G、G2G のメッセージ実装ガイド
- ・ シングルウィンドウ・フレームワーク
- ・ 最新の法制度

④ eCOO グループ（電子原産地証明書作業部会）活動報告

eCOO 議長の Dr. Mahmood Zargar（イラン）より、イランにおけるデータモデル策定（データハーモナイゼーション）状況説明に基づき、次の討議が行われたことが報告された。

- ・ 電子原産地証明書交換における法的課題
- ・ 税関当局の eCOO プロジェクトへの参画
- ・ 電子原産地証明書の相互運用性
- ・ PKI（公開鍵交換基盤）コスト
- ・ 最新 WCO（国際税関機構）データモデルの使用

（3） AFACT 活動報告

- ・ AFACT の ECOSCO（国連経済社会理事会）への NGO（非政府組織）登録手続きは最終段階にある。NGO 登録に関し、AFACT 規約（Bylaw）を一部改訂する必要がある。
- ・ 2012 年版 AFACT 年報（Year Book）作成のスケジュールが次の通り提案され、了承された。

9 月第 1 週	メンバー報告原稿締め切り
10 月第 1 週	2012 年 Year Book 原稿完成
10 月末	メンバーによる原稿レビュー
11 月	AFACT 総会にて配布

(4) ISO TC154 関連活動への参加

AFACT は TC154 主催の TDED (貿易データ要素辞書) 保守グループに準メンバー (Associate Member) として登録された。また、AFACT の TC154 のリエゾン・メンバーシップについては、ISO 中央事務局の承認の内諾があり、本年 10 月に開催される TC154 総会の承認待ちとなっている。

(5) 移行タスクフォース (TFT) の提案

TFT 議長の Dr. Nguyen Manh Quyen (ベトナム) より、改めて TFT の役割が説明された。

- ・ TFT はアドバイザーとして StC を支援する。
- ・ BDC/CSC/TMC に跨る活動を行う。
- ・ TFT は StC に勧告を行う。

また、AFACT として次の活動に着手すべきとの提言があった。

- ・ 消費者保護に関する法制度
- ・ 業界別電子ビジネス標準
- ・ 新技術フレームワークに基づく実証プロジェクト

(6) 今後の AFACT 会議予定

2012 年 11 月	AFACT 総会 (テヘラン)
2013 年春	AFACT 中間会議 (ベトナム)
2013 年秋	AFACT 総会 (ベトナム)

なお、2013 年には e アジア賞のイベント (1 年おき) も行われる。

VI. UNNExT 技術研修ワークショップ:

5 月 23 日、UNNExT の技術研修ワークショップが開催され、タイの Dr. Sumnuk Keretho (KU-INOVA: 大学機関)、日本から菅又 (SIPS)、韓国の Mr. Young Jun BAE (Torpedo: IT ベンダー) の 3 講師による講演が行われた。参加者は、大多数はイランの政府関係者および IT ベンダーで、一部中央アジア (カザフスタン等) からの出席を含め、約 30 名程度であった。

(1) 貿易手続のモデリングとデータ設計

Dr. Sumnuk Keretho より、UNNExT で発行した「ビジネスプロセス分析 (Business Process Analysis)」「データモデル分析 (Data Harmonization and Modeling)」に基づき、シングルウィンドウシステム構築のための手法の解説が行われた。

(2) 電子メッセージ設計

小生は、次の国連 CEFAT 標準に基づいた電子交換用メッセージ設計手順につき講演を行った。

- UMM : UN/CEFACT Modeling Methodology
- CCTS : Core Component Technical Specification
- NDR : XML Schema Naming and Design Rule
- BRS : Business Requirement Specification
- RSM : Requirement Specification Mapping
- CCL : Core Component Library
- CCBDA : Core Component Business Document Assembly
- BDH : Business Document Header

(3) データ交換におけるセキュリティ

Mr. Young Jun BAE より、セキュリティに関する技術手法のイロハから最新技術にいたる解説が行われた。

- 対照暗号方式と非対照暗号方式
- 暗号化アルゴリズム (DES、RSA、HASH、etc)
- 正確性、認証性、非否認性、機密性
- PKI と認証局
- セキュリティ・プロトコル (SSL 等)

VII. ESCAP-ECO 貿易手続簡易化フォーラム

国連 ESCAP と ECO の共催で、特に ECO 加盟国を対象に、貿易手続の電子化とシングルウィンドウの促進を目的に、情報交換が行われた。ECO 加盟国とはイランを中心とした次の国々である。

イラン、キルギスタン、アゼルバイジャン、トルコ、パキスタン、アフガニスタン、カザフスタン (欠席)、タジキスタン (欠席)、ウズベキスタン (欠席)、トルクメニスタン (欠席)

各国の国境を合わせると、ペルシャ湾、中国国境、インド国境、ロシア国境、カスピ海、および欧州との出入口が集約されることになり、地政学的に大きな意味があるようだ。

また、当該地域に関心のある多くの国と機関が参加したことは興味深い。参加組織は次の通りである。

韓国、タイ、シンガポール、香港

UNECE (国連欧州経済委員会)、UNESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会)、WCO (世界税関機構)、PAA (アジア電子商取引アライアンス)、UNCITRAL (国連国際商取引法委員会)、AFAC、ECO

(1) 国際電子取引の条件

Mr. Mahmood Zargar (イラン) の司会により、次のスピーカーよりプレゼンテーションが行われた。

Mr. Sung Heun Ha (韓国) : シングルウィンドウ構築には、多くの関係機関と多額の予算が必要であり、政府のコミットメントが必須となる。

Mr. Luca G. Castellani (UNCITRAL) : 今後の法制度では、Identity の識別とモバイル環境を考慮しなければならない。

Mr. Koh Tat Tsen (シンガポール) : シングルウィンドウの設計では、正当性と運用開始後の継続性が重要である。

Mr. Sumnuk Keretho (タイ) : ビジネスモデル分析からメッセージ設計にいたるまでの技術課題につき説明。

(2) 国際電子取引のツール

Dr. Mir Ali Seyyedi (イラン) の司会により、次のスピーカーよりプレゼンテーションが行われた。

Mr. Sang Hyup Lee (WCO) : シングルウィンドウの設計にあたっては、税関通過時間分析 (TRS: Time Release Study) を行うこと。

MR. Tauno Kangar (UNECE) : 国連 CEFAC のツール (標準とガイド) を紹介。

Mr. Luca G. Castellani (UNCITRAL) : 法制度のツールとしてモデル法について紹介。

(3) シングルウィンドウの計画と実装

Mr. Jafar Mahmoodi (イラン) の司会により、次のスピーカーよりプレゼンテーションが行われた。

Mr. Sumnuk Keretho (タイ) : SWIF (シングルウィンドウ・フレームワーク) につき紹介。

Mr. Sangwon Lim (UNESCAP) : UNNExT の活動とガイドラインを紹介。

Mr. Sung Heun Ha (韓国) : KNET を中心とした韓国貿易手続システムを紹介。

(4) 各国の状況についての情報交換

Mr. Fatih Unlu (ECO) および Mr. Hossein Damghani の司会により、次のスピーカーよりプレゼンテーションが行われた。

Mr. Jafar Mahmoodi (イラン) : 信頼性の保証としての e-Trust ロゴを紹介。

Mr. Sysed Tanvir Ahmad (パキスタン) : 税関システム構築における課題を提起。

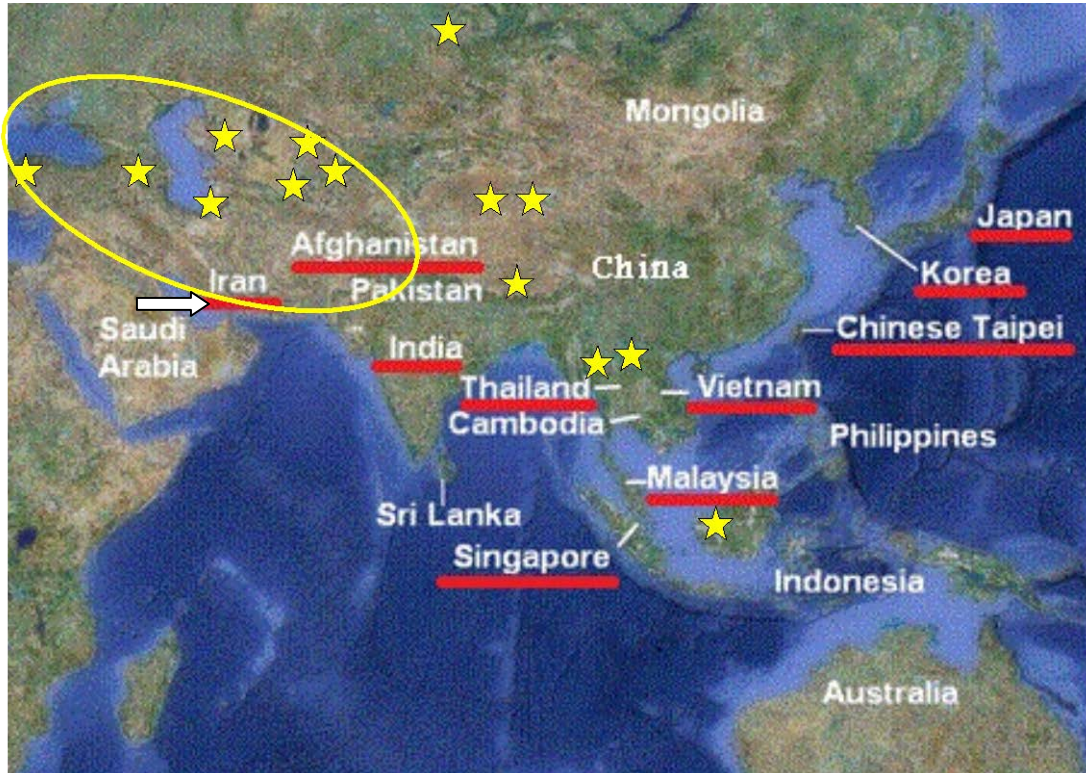
Mr. Anthony Ho (香港) : 香港 (Trade Link 社) の DTTN (Digital Trade & Transportation Network) の紹介が行われた。DTTN のゲートウェイは北京・上海など中国各地に展開されている。

Mr. Soo-Young Yun (韓国) : 世界銀行が行っている、各国の貿易窓口効率化指標についての紹介があった。効率化ランキングのトップはシンガポール。

Mr. Koh Tat Tsen (シンガポール) : PKI 認証の実装につき、PAA および ASEAN シングルウィンドウの事例を紹介。

(注) Mr. Koh Tat Tsen が勤務する CrimsonLogic 社の海外活動 (シングルウィンドウ構築プロジェクトの販売) の紹介も合わせて行われた。アフリカ (モザンビーク、マダガスカル、ケニヤ、タンザニア、ルワンダ、ベナン、トーゴ、リビヤ、モロッコ等)、中南米、中近東 (サウジアラビア、カタール、バーレン、オマーン等)、中国 (地域別シングルウィンドウ)、モンゴル (プロジェクトは韓国が獲得) など合計 24 件の RFP (提案要求) を分析した結果が披露された。

以上



国名（白字）：AFACT メンバー（朱下線：積極的な参加国）

★：ESCAP 加盟国（AFACT 以外）

黄色：ECO 加盟国

⇒：キッシュ